

---

# BLUE SKY - ORANGE SKY

加藤 雅俊

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

BLUE SKY - ORANGE SKY

### 【Zコード】

Z0974P

### 【作者名】

加藤 雅俊

### 【あらすじ】

これまでの僕自身の経験・考えを書いていきます。

(繪畫)

まいじへお願こしあす。

BLUE SKY  
ORANGE SKY

加藤 雅俊

この作品をこれまで出会った人々へ贈ります。  
妻、両親、義父、義母、兄弟、親類の方々、感謝しています。ありがとうございます。

Double Orangeのちびまるさん、たかマスターさん、チ  
ームDouble Orange、Double Orangeフ  
アンの方々、ありがとうございます。

0・BLUE SKY

ただ、ただ、青い空が広がっていた。  
僕はその空のもと、これまで、ただ・・・ただ・・・生きていた。  
ほとんどの時間、僕は「シンディイタ」。これからはもつと「イキテ  
イル」時間を増やしたいと思つ。

僕の夢はもうかなえることはできないけれど、僕ができることはな  
つておきたいから。

絶望の中で「イキル」ことはツライことだけれど。  
こんな僕を支えてくれるヒトや、僕以上に頑張つていなか  
がいることを知つたから。

多くのヒトが本当に「イキル」ことに対する気が付くことができれば、何か  
は変わると思つ。

そう信じてみようと思つ。

## 1・記憶？

僕の一番古い記憶。

それは母方の祖父の家の近くにあった公園の風景だ。

これは画像として記憶に残っているだけ。

電車の音もある。しかし画像はおぼろげで、思い出せない。  
おそらく、祖父が線路の近くまで連れて行ってくれていた時に聞いた電車の音だと思う。

その次に古いのは、祖父のお葬式の様子だ。

これはなぜか小さい自分が椅子から落ちて泣いたり、母と思われる人におぶさっている姿が映像のように残っている。そう、自分自身が映像として見える。

おそらくこれは後々になってから、祖父のお葬式を行っている時（お経を唱えている時に自分が椅子から落ちて泣いて、外で誰かの背におぶさっていたということを聞いて、つくり出された記憶だと思われる。

不思議なことだけれど、この時のこと思い出すと、いろいろな角度から自分自身を映像としてみることができる。

高い位置から自分がおぶさっている姿、ズームアップして泣き止んだ顔。

つくりだされた記憶だからこそのようなことができるのだらう。

皆さんもそんな記憶、ありますか。

今まであまりこのような話をしたことなかったので、他の人もそういうのか気になつてゐるんですけど。

## 祖父の葬儀の記憶。

僕は、僕の心の奥底にいる僕がこの記憶を強く意識したいから、このような記憶のようなものがあるように思っています。

人の死。生命の終わり。

それが心の奥底にいる僕にとっては非常に重要なものと意識したのでしょう。きっと。

2・記憶？

3・記憶？

4・記憶？

O · O R A N G E S K Y

これから空はオレンジ色に染まろうとしている。

僕は・・・僕は・・・

僕は、これから道を選ばなければならぬ。  
もう遅すぎるぐらいだ。

数秒後、数分後に死んでいる可能性だってあるのだ。

僕は何をし、何を残すのかだけでも決めなければ、僕は後悔すると

思つ。

この作品を書いた理由、それは自分自身に対しても、そのことを伝えるためだと思ひ。

川上さん、篠さん、僕は君達のよつこはなれないけれど、僕は僕なりのことをしょひと思ひ。

それを見ていてほし。

オレンジ色の空、とても綺麗だ。

これから僕はオレンジ色の空のもとを生きて、イキテイク。  
また、シンボルシマウ」とあると想ひなれば。

イキテイル時間を増やして、こうすることを発信していくかたいと思  
う。

オレンジ色の空を見つめながら。

僕はイキルンダ。

追記

誰かが言っていた。

「自分以外のヒトの心を変える」とはできない。変えることができ  
るのは自分自身の心だけだ。」と。

確かにそうだと想ひ。だけれど、誰かの心を変えるキッカケをつく

ることをヒトはできると思つ。

そつ僕は信じじて、この作品を僕はつくる。

この作品がキッカケになるヒトが1人もいなくとも、失敗に終わつたとしても、作品をつくり続けていきたい。

これも誰かが言つていたことだけれど、「何事もあきらめず、やり続ければ、きつとやり遂げることができる。」と。

多くのヒトがいろいろな事情があつて、夢の実現とかをあきらめてしまうことが多いと思つ。

でも、きっと、どんな形でもあきらめずに、ずっと行動を続けいれば、何かを起こすことはできると信じてみませんか。思ったことに近いことが実現するのは50年後かもしれないけれどもしかすると、自分自身が死んでしまった後になるかもしれないねど。

あきらめてしまえば、そこでオワリといふことが決まつてしまつ。どんな形でもいいから、続けていきませんか。いつか実現することを信じじて。

自分でオワリと決めるのではなく、またいつか再開することを心に秘めておく、という形でもいいと思うんです。僕も実はそういうながら、生きていいくと思うんです。

シンデイル時間が長く続いても、短いイキテイル時間に行動すれば良いと思つています。

僕は、どうしても絶望の中に屈座つてしまつことが多いけれど、時々、希望のようなものが見えたとしても動けないことが多いけれど。

絶望の中、希望をつかむことができなくても、希望を見続けることができた時だけでも、ただ生きているのではなく、本当の意味でイキテ、作品をつくるよつこしたいと思つ。

僕以上の絶望の中でも苦しんでいるヒトがいると思います。

そんなヒトに僕の作品は役に立たない気がするけれど。

シンデイル状態では何も変わらないのだから、ツライと思うけれど、少しの時間でも良いからイキテイル時間をつくってほしい。僕のことを知っている人が、僕がこんなことを言つたことを知つたら、きっと笑われてしまうと思うけれど。

まだ死んでいない、生きているのだから。少しでもイキテイル時間過ごせることを願っています。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0974p/>

BLUE SKY - ORANGE SKY

2010年11月23日23時25分発行